

モデル事業名	花巻市立谷内小学校の跡地活用方策の住民検討と地域づくり支援
活動団体名	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター
ホームページ	http://www.k5.dion.ne.jp/~iwasen/
所属/ 担当者名	若菜千穂
連絡先	0198-26-2187 iwasen@w9.dion.ne.jp
活動地域	岩手県花巻市東和町東和東部地区

● 活動地域の概況

- ・ 東和東部地区は、東西約6km、南北約11km、おおよそ65km²の広さの中山間地域である。
- ・ 人口2400人、世帯数は715世帯で、5行政区、67集落からなる。
- ・ 高齢化率は33%、高齢者世帯率は高齢者単身世帯を含めて23%に達する。
- ・ 地区内は5つの行政区からなり、それぞれの地区に集落センターや公民館が立地している。
- ・ 区域内には地区センターなどの拠点施設がなく、振興センターは谷内小学校の一部を活用して設置されている。コミュニティ会議などは谷内小学校の教室を活用しており、地区の拠点的な施設を兼ねている。
- ・ 谷内小学校は平成24年3月を以って廃校となる予定である。



【対象地位置図】



【東和東部地区は典型的な中山間地域】



【谷内小学校の現校舎】

● 活動地域の課題

活動の背景として、地域の課題は①～③が挙げられる。また、新たに平成20年度の活動により④～⑤の課題が生じている。

- ① 地域コミュニティの拠点でもある小学校が閉校の予定である。
- ② 少子高齢化と人口減少を背景として集落再編の必要性があり、実際に取り組みが始まっている。
- ③ 「新たな公」の考え方に即した新たな検討組織が必要となっている。
- ④ 社会実験的な取り組みによってより具体的に検討していく段階にある。
- ⑤ 市との積極的な協議と連携が必要となっている。

● 活動の内容

・平成20年度

初年度として若手を中心とした検討体制を立ち上げ、ワークショップ形式での検討を行うと共に、検討に必要な基礎資料の収集や先進地視察などを行った。

- | | |
|-------------------------------|-------------------|
| 活動① プロジェクトチームの立ち上げとワークショップの開催 | 活動② 地域概況の資料収集整理 |
| 活動③ 人口推計分析 | 活動④ 地域の現状調査、集落点検 |
| 活動⑤ 先進事例視察 | 活動⑥ 今後の活動方針のとりまとめ |

・平成21年度

市との協議を経て、小学校跡地に地域のコミュニティ拠点施設の検討を進めることが合意されたことから、昨年度に引き続き、ワークショップ形式で建物の基本構想の検討を行った。検討の中で、社会実験的な取り組みを行う予定である。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 活動①: 小学校活用実践チームを立ち上げと検討 | 活動②: 事例収集及び先進地視察(5箇所程度) |
| 活動③: 社会実験的な取り組みの実施 | 活動④: 市との協議と協働体制の確立 |
| 活動⑤: 行動計画案の作成 | |

● 活動の成果

・平成20年度

効果1 プロジェクトチームによる検討体制の構築

組織に当たっては、若手（40歳くらいまで）と女性を多く含めるように配慮した結果、これまでの自治組織への参加メンバーとは異なる新しい人の参加を促すことができた。

効果2 地域の課題についての認識の共有化

市は、東和東部地区を新しいコミュニティの枠組みとして位置づけているが、5つの自治会、3つの小学校にまたがっていることもあり、コミュニティの一体感の醸成が課題となっている。委員会での検討のほかに、住民アンケート調査なども行い、地域としての課題を共有化できた。

効果3 小学校跡地活用案の整理

検討結果を住民アンケートという形で地域に在住する住民全員に問いかけを行い、小学校跡地の活用案が整理できた。

効果4 市との連携体制づくり

市としては、小学校閉校後の校舎の取り扱いを明確にしていなかったため、委員会としてはこれ以上具体的な活用策を検討することが困難になっていた。その問題に対して、第5回ワークショップには市当局も参加してもらっての意見交換を行い、その結果、今年度の成果として市に対する要望・提案書を取りまとめた。

・平成21年度

施設の基本構想図づくり

市との意見交換を通じて、地域のコミュニティ拠点施設として立てていくよう、要望していくことが決定し、より具体的な検討がスタートした。その結果、4つの構想図ができたため、全世帯を対象とするアンケートを経て、基本構想図を完成させる予定にしている。構想案は、住民ならではのオリジナリティあふれる意見がたくさん含まれており、活動の成果がみられる。

社会実験の実施

今年度はさらに社会実験に取り組む予定である。社会実験は拠点施設に期待する機能を確かめるためと、広く住民に委員会の活動成果を示すことを目的として、パブリックビューと料理・スポーツイベントを行う。また、拠点施設はエコハウスとして地域を牽引することをも期待することから、地域独自の事業として、エコハウスに関する視察も行うこととなっている。

今年度は、設計図を使っでの検討や、社会実験の検討などより具体的な検討となったことから、委員の参加意欲が高まり、独自に検討してきた内容を委員会の場に持ち込む姿勢もみられるなど、より主体的な活動となっていることは大きな成果である。

これらの成果をとりまとめ、施設の活用や運営への住民の関わり方まで書き込んだ意見書を取りまとめ、市との協議につなげていく予定である。

● 今後の課題及び展望

【課題】

最も大きな課題は委員の参加率の向上である。特に委員会は、次世代の地域づくりを担う人材の発掘や育成も兼ねることとするために、30代や40代の世代を多く含むメンバー構成とした。しかし、忙しい世代であることや、小学校の閉校行事なども始まったことから、参加率が低い状況が続いた。

もうひとつの課題として、施設の活用や運営に関して議論が十分ではないという課題がある。

また、今年度の成果として、市に対する具体的な提案をとりまとめるが、費用面や運営面を含めた本格協議はこれからであり、活動を継続していく必要がある。

【展望】

施設の活用や運営に地域住民が参画することによって、初めて地域づくりの拠点施設として十分活用することができる。上記の課題を踏まえても、市と対等に協議できる体制を維持していくこと、さらに施設の基本設計が確定した後も、現在の検討組織を実践チームとして再編し、さらに協議・検討を進めていくことが必要である。



委員会の検討風景



現在の小学校の視察



市との意見交換



基本構想の検討も増資